

「思いやりのある子に育ててほしい!!」 ～親がすべきことは?～

☆プログラムのねらい

教育現場や家庭において関心の高い「思いやり」は、その前提として、他者の存在の認識、気づきがあることを知り、思いやりのある子に育てるために心がけておくことについて考える。

時間	進め方	準備物等
導入 10分	アイスブレイク ・ 指導者の自己紹介などから始めて場を和らげ、温かい雰囲気を作る。 ・ 4人程度のグループをつくる。 <ルールとマナーを確認する> ● 積極的に参加しましょう。 ● 一人一人の考えや思いを尊重しましょう。	アイスブレイク集
展開 30～ 45分	ワーク1 ① 資料から、「人を思いやることのできる子ども」を選択した人が、他の項目に比べ突出していることから、多くの人が子どもの「思いやり」に関心を寄せていることに気づかせる。 ② 多くの人が感心を持っている「思いやりのある子ども」であるが、具体的には、子どものどんな姿をイメージしているか、各自の考えを記入させる。 ③ グループごとに、自分の意見を出し合い、具体的な例をもとに「人を思いやることができる」とは、どのようなものか、話し合う。 ④ グループで出てきた意見を出し合い、人によって感じ方が違うことの難しさはあるが、基本は「相手の気持ちを考える、相手の立場に立って考える」ことを確認する。 ワーク2 ・ 各自記入後、意見交換して、グループごとにまとめ、全体に紹介する。	ワークシート グループの意見をまとめる 広幅用紙マジック
まとめ 5分	資料～思いやりのある子に育てるポイント～ ①について ※「家庭教育手帳」は、文部科学省が作成し、平成20年度までは全ての保護者に配布されていたが、現在では、同省ホームページ掲載のみとなっている。①乳幼児編、②小学生（低学年～中学年）編、③小学生（高学年）～中学生編の3種類があり、いずれも「思いやり」の項目を設け、10～12ページにわたって掲載している。参加者の実態に合わせて、資料を選択してもよい。 ※ 参加者の中には、自分の親や義理の親との確執から、内容に共感できないと感じる人もいると思われる。そういった発言が出る前に、そういった気持ちに共感しつつも、「それらの言動を子どもの前でしているとき子どもはそれをどう受け止めるか」を考えさせるように働きかける。 ③について ※ ありがちな例として「自分ばかりブランコに乗ってたらだめでしょ!!代わってあげなさい。」という声のかけ方があるが、これは、子どもが他者の気持ちを理解することできない。好ましくない例として紹介する。 ふりかえり ②プログラムを通して考えたことを各自書かせ、感想などを発表させる。 ※ ファシリテーターからのアドバイスをする場合は、意見の押し付けにならないように留意する。 <ルールとマナーを確認する> ● 講座で知り得た個人情報などは外へ持ち出さないようにしましょう。	家庭教育手帳

※ 時間は必要に応じて調整してください。